

平成28年度こんにゃく原料需給実績

(単位:精粉20kg/袋)

項目 年度(28.11~29.10)	需 要 量 (消費量)	供 給 量					期 末 在 荷 量
		期初在荷量	国内生産量		輸 入 量	供 給 量 合 計	
			生 産 量	春 切 り 量			
計算式	a=f-g	b:前年実績	c:実績	d:前年並	e:実績	f=b+c+d+e	g:注2参照
原料(国内・輸入) 数量実績 (前年度実績)	268,300 280,900	146,900 142,600	322,000 263,600	5,000 5,000	16,000 16,600	489,900 427,700	221,600 146,900
製品 輸入数量実績 (前年度実績)	29,300 28,100	0 0	0 0	0 0	29,300 28,100	29,300 28,100	0 0
合計 (前年度実績)	297,600 309,000	146,900 142,600	322,000 263,600	5,000 5,000	45,300 44,700	519,200 455,800	221,600 146,900
前年比(%)	96.3%	103.0%	122.2%	100.0%	101.3%	113.9%	150.9%

注1)ラウンドしているため加減があわないことがある。

注2)算出方法は以下のとおり。なお、②、③及び⑥は平成26年度こんにゃく原料需給実績から変更している。また、生産量、在荷量に関しては平成27年度からの計算方法の変更及び今年度(29年度)から農水統計の全国生産量推計方式による生産量算出方法に変更したことに伴い21年度まで遡って再計算しているため、平成27年産以降のこんにゃく原料需給実績とそれ以前の発表数値は連続しない。

①期初在荷量は、平成28年度在荷量調査(27年産)を基に⑤と同様の方法で算出した27年度の期末在荷量146,900袋とした。

②生産量は、平成28年産生産量(74,982トン)から算出(74,982×1,000×歩留(8.589%)÷20kg=322,009)し、322,000袋とした。

③春切り量は、平成27年度需給計画とほぼ同じ5,000袋とした。

④原料輸入量は、1次関税枠(45.7トン)及び2次関税枠(274.4トン)の輸入量(320.1トン)から算出(320.1×1,000÷20kg=16005袋)し、16,000袋とした。

⑤期末在荷量は、平成29年度在荷量調査(平成28年産)を基に、全こん連調査結果の合計期末在荷量に対する合計買入量の比率(52.8%)を全国製造業者の期末在荷率とみなし、これに全国製造業者の買入量(国内生産量(春切り量を含む)+原料輸入量+全農・全原協の在荷増減量=307,572袋)を乗じて算出した全国製造業者期末在荷量162,384袋に、全農及び全原協の調査結果の期末在荷量合計59,202袋を加えて221,600袋とした。

⑥製品輸入数量は、輸入量(19,327トン)から、精粉換算(製品倍率33倍)で算出(19,327×1,000÷33÷20kg=29,283袋)し、29,300袋とした。

⑦原料需要量は、供給量から期末在荷量を差し引いた、268,300袋とした。